

十日町市で、小中一貫教育を平成26年より完全実施としました。3つの教育課題を解決し、目指す子どもの姿を具現化するために小中の円滑なつながりをつくり、9年間を見通した教育活動を展開します。

十日町市で目指す子どもの姿

ふるさと十日町市を愛し 自立して社会で生きる子ども

方策1 教職員のつながり

確かな学力と豊かな心の育成

- ・9年間を見通した 教育課程の編成
- ・小中の緊密な連携による 切れ目のない支援や指導の推進
- ・こ保小の連携の推進



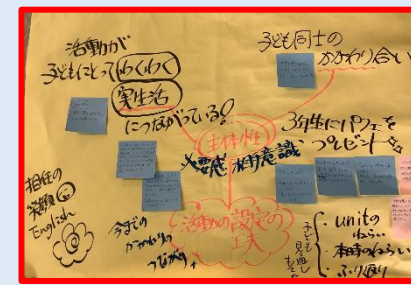
1日異校種体験研修での授業



探究的な学びの公開授業



中学校区の特別支援教育合同研修



小中授業交流

協議会記録

小中で連携した学習規律づくり



伝統芸能を学び
地元の人々とつながる



ツールドつまりを学び、地域と共に
支える活動

つながり いっぱい

十日町市の 小中一貫教育

- ・9年間を見通した教育課程の編成・実施
- ・6・3制を維持しつつ、小中の円滑な接続を目指す

○市の共通取組事項

- ・居心地のよい学級づくりをベースとした
自己有用感を育む取組の充実

○中学校区ごとの取組

- ・9年間を通じて育てる子どもの姿を明確にした
グランドデザインの改善・見直し
- ・特色ある教育活動の推進

令和7年度の 重点

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた探究学習の推進
- ・小中と家庭等で連携した家庭学習習慣づくり

方策3 地域とのつながり

地域に誇りをもち、創造性豊かな子どもの育成

- ・地域の学習素材や人材・組織を活用した 体験的学習の充実
- ・保護者や地域の組織等と連携した 中学校区の課題解決の推進



教育フォーラム
保・小・中学校の保護者・教職員・住民参加



地域に学習支援の感謝を伝える収穫祭



合同あいさつ運動



小中学生ピアサポート活動

3つの教育課題

学力向上 不登校・いじめの減少 特別支援教育の充実

方策2 児童生徒のつながり

豊かな人間性や社会性の育成

- ・学級・学年、他校、異学年、異校種の子どもの絆づくり
- ・子どもたちが活躍、認め合う機会を増やす居場所づくり



小中合同陸上練習



小小交流集会



小中縦割り班での集会



中学生による小学生学習支援



特別支援学校との交流



いじめ見逃しゼロスクール集会

児童生徒の

教職員の

つながり

地域との

十日町市で目指す子どもの姿

ふるさと十日町市を愛し 自立して社会で生きる子ども

十日町市の3つの教育課題

学力の向上

不登校・いじめの減少

特別支援教育の充実

十日町市の小中一貫教育

成果と課題

令和6年度小中一貫取組評価アンケート

(令和6年11～12月実施) 児童生徒:12項目2678人 教員:4項目352人 保護者:2項目2151人 ※グラフ内の破線は小中一貫教育で目指す目標値
「肯定的評価」…4択(「そう思う」「大体そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」)のうち、「そう思う」と「大体そう思う」と答えた割合の和 「強い肯定」…4択のうち「そう思う」と答えた割合

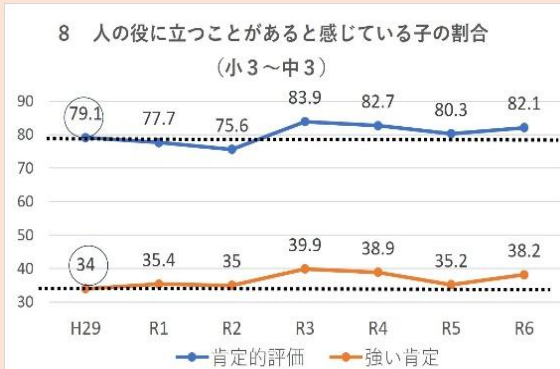
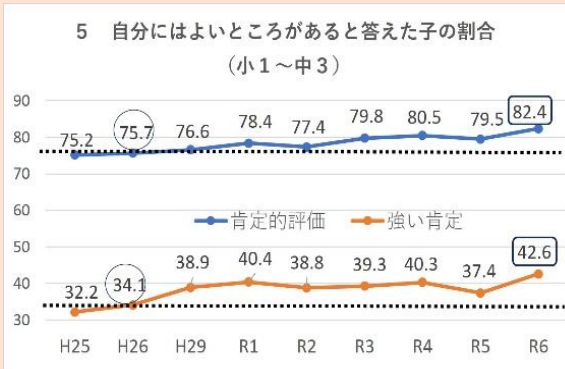
市の共通取組事項

「居心地のよい学級づくりをベースとした自己有用感を育む」取組のさらなる推進

十日町市で目指す子どもの姿の実現のために、平成26年度から「自己有用感を育む」ことに取り組んできました。令和7年度も主要事業として「居心地のよい学級づくり」を推進します。親和型の学級は、自己有用感が高い傾向が見られます。今までの実践を基盤に、学校全体で取り組みます。

右下のグラフの指標を用いた評価では、目標値の破線を概ね上回る状況にあります。

今後も、「居心地のよい学級づくり」とおして児童生徒の自己有用感を育み、それをベースとして、交流等の活動を工夫改善しながら、小中一貫教育の取組の質をさらに向上させていけたらと思います。



児童生徒間の 学校間の

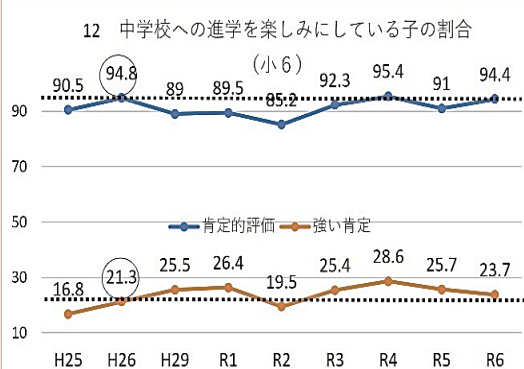
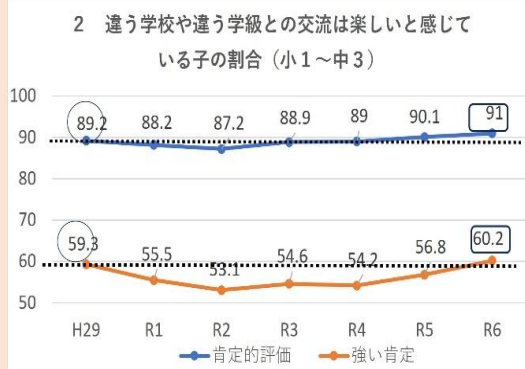
「つながり」について今後も期待！

十日町市の小中一貫教育の「つながり」は、様々な方策の中でも核となるものです。

小学校同士のつながりを目的とする「小小連携」も小中学校のつながりを深めることを目的とした「小中連携」も、各中学校区において、それぞれの特長を生かし、表面の写真にあるような多様な活動が組まれてきました。

右下のグラフのように、学年や校種を越えた活動に楽しさを感じ、中学校進学時の不安よりも楽しみを感じている子どもの割合も高くなっています。

令和元年度以降は、新型コロナウイルス感染下により、交流活動が制限される年が続きましたが制限が緩和され、さらなる充実した交流活動が期待されます。特に特別支援学校との交流が進み、グラフの好結果につながりました。



小中一貫教育 令和7年度に重視したい点

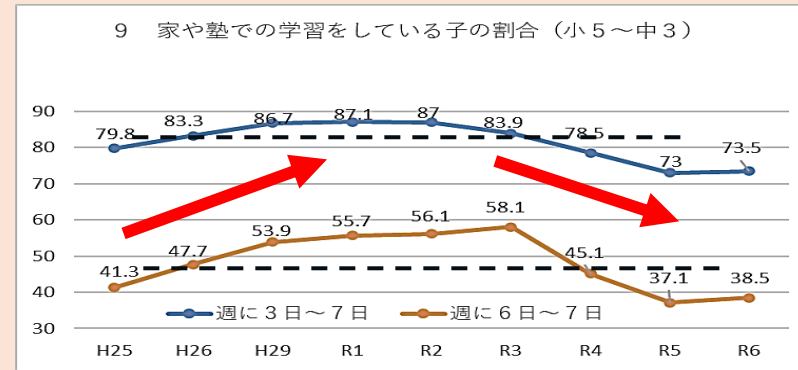
左下のグラフは学校以外で勉強する日を尋ねたもの。1週間に「6～7日」「3～5日」「1～2日」「全くしない」の4択。青い線は「6～7日」と「3～5日」と答えた割合の和。オレンジの線は「6～7日」と答えた割合。

☆家庭学習習慣の低下傾向に注目！

小中一貫教育の立ち上げを検討していた頃の十日町市の教育課題の1つに、家庭学習の習慣ができていない児童生徒が多いことがありました。そこで、各中学校区において、「家庭学習の5か条」「家庭学習強調週間」等の学習習慣を付けるための取組を、保護者等の協力を得ながら行ってきました。

令和6年度の取組として、家庭学習時間だけでなく、自分で家庭学習の計画を立てるマネジメント力を付けるために、発達段階に応じた9年間の子どもの姿を設定して取り組む中学校区もありました。

その結果、下のグラフでもわかるように、令和2年度頃までは順調に家庭学習習慣が改善されている様子が見られました。令和6年度に一定の歯止めがかかりましたが、それまでの急激な低下が気になります。

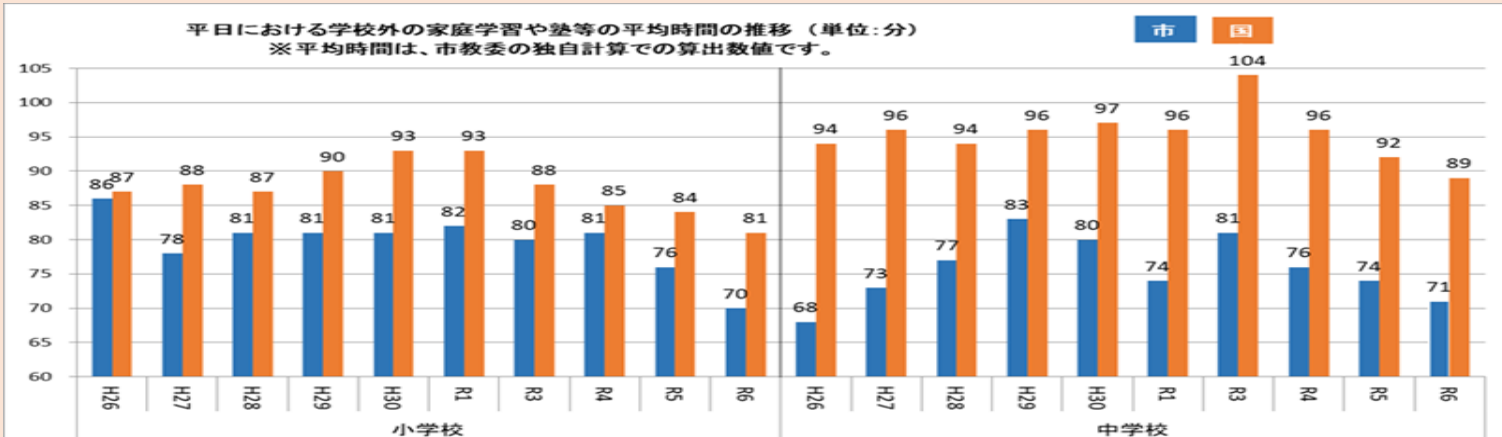


同様の傾向は、右の全国学力学習状況調査「平日における家や塾での学習時間」でも見られます。

市教育委員会では、「居心地のよい学級づくり」事業で大切にしている学習場面の相互作用の活性化に欠かせない「学習内容の理解と確かな知識の定着を図る方策」として、家庭学習を重視しています。

そこで、令和6年度から「ドリルパーク」を全市立学校に導入し、授業や家庭学習での個別最適な学びと学力向上の支援策として活用しています。各中学校区では、週末にドリルパークの課題配信を行い、家庭学習の習慣化を図るICT活用取組や、終学活でその日の家庭学習を自分で決めるなど、主体性を重視した取組も進められています。

今まで取り組んできた「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るため、「すべての子どもが自分の意見を述べる授業づくり」に取り組んでいくとともに、次のステップとして「探究学習を推進すること」も授業改善を図る大切な視点として加えていきましょう！



教育委員会等の支援等

〇市の共通取組事項

・共通取組事項「自己有用感を育む取組」の充実
主要事業「居心地のよい学級づくり事業」の推進

〇中学校区への支援

〇研修・連絡調整等 ・小中一貫教育計画訪問 ・小中一貫教育合同研修会(8月6日:文部科学省初等中等教育局 田村学主任視学官)
・広報小中一貫教育だより[つながる]発行 ・小中一貫教育推進協議会 ・小中一貫教育推進コーディネーター研修
〇その他の主な支援 ・学力向上, 生徒指導, 相談担当, 教員サポート, ICT担当指導主事配置 ・臨床心理士, SSW, 教育支援員, 各種相談員配置 ・医療連携 等